



AUE News

2012年8月1日

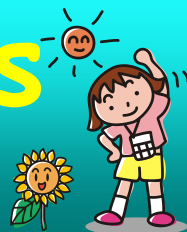
第 45 号

編集・発行

愛知教育大学広報部会

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500



目次

- 行事予定(8月 1-31 日)
- トピックス
 - ・ JICA ボランティアセミナー
 - ・ 夏季省エネポスター入賞作表彰式
 - ・ キャンパスクリーンデー
 - ・ 「夢ナビライブ 2012」に本学参加
 - ・ 混声合唱団ランチコンサート
 - ・ JICA 集団研修閉講式
 - ・ 愛知県青年健全育成講演会で本学教員が講演
 - ・ 天文台一般公開
 - ・ トヨタ自動車見学会
 - ・ ダンス部全国大会出場作品お披露目会
 - ・ ガラス造形展
 - ・ オープンキャンパス
 - ・ 特別経費プロジェクト中間報告
 - ・ 豊明市との包括協定締結式
 - ・ 教員のための金融教育セミナー
- お知らせ・報告・投稿
 - ・ 読書カフェ
 - ・ 第1回新教養科目FD
 - ・ 催しもの案内
 - ・ 8月15日付発行号休刊のお知らせ

行事予定(8/1-31)

- 1 日(水) 情報システム委員会 (13:30～ 第三会議室)
- 大学改革推進委員会 (15:30～ 第三会議室)
- 6 日(月) 経営協議会 (14:30～ 名鉄グランドホテル)
- 顧問会議と経営協議会との合同会議 (15:40～ 同)
- 免許状更新講習 (22 日まで)
- 7 日(火) 役員会 (10:00～ 学長室)
- 13 日(月)～17 日(金) 夏季一斉休業
- 21 日(火) 役員会 (13:00～ 学長室)

トピックス

JICA ボランティアセミナー(7/17)

7月17日(火)、第二共通棟で、JICA(独立行政法人国際協力機構)による「JICA ボランティアセミナー～国際協力というシゴト～」が開催されました。広く学内に周知したオープン・セミナーとして、授業の一環として行い、ODA や青年海外協力隊による経済発展を支援する取り組みを通じて発展途上国への理解を深め、持続可能な国際社会の形成のために日本が果たすべき役割を考えました。実は本学OB、OGのJICA ボランティア参加数は108人で、愛知県内の大学トップ3に入ります。

JICA 勤務経験のある私が趣旨を説明した後、JICA 中部スタッフの佐屋達紀さんが事業内容、途上国への開発援助が共存・恩返し・人道支援の



三つを軸とすること等を説明しました。その後青年海外協力隊OBで本学OBでもある井上竜二さん（赴任国：ジンバブエ、職種：野球）がジンバブエでの活動内容、援助の難しさ、活動の中で凝らした創意工夫、協力隊経験が後のキャリアに与えた影響等をユーモアを交えて語り、92人が参加した会場は時折笑いに包まれました。質疑応答では協力隊を志望する学生らから、応募可能な職種、ジンバブエの社会経済状況、新卒で隊員となるメリットとデメリット、など多くの質問がありました。なお同セミナーは来年も実施予定です。

（社会科教育講座 講師 嶺崎寛子）



夏季省エネポスター入賞作表彰式(7/18)

夏の省エネを呼び掛けるポスター学内コンテストの入賞作品が決まり、7月18日（水）午後1時15分から学長室で表彰式が行われました。

今回は、昨年度に続く2回目。本学学生と附属学校園の生徒、教職員を対象に作品を募ったところ、小学生・中学生部門15点、一般（高校生以上）部門に8点の作品が寄せられました。7月3日の役員部局長会議で厳正な審査を行い、最優秀・優秀作品を選考しました。

表彰式では松田学長が受賞者に賞状と記念品を授与しました。受賞作品は、体調に無理のない節電を呼び掛けた作品と、蛍が飛び交う情緒ある作品で、どちらも色合いのきれいなポスターとなりました。受賞した職員は、自宅で1週間程度かけて作成したとのことでした。



（施設課機械担当係長 谷川正憲）

キャンパスクリーンデー(7/18)

学内の一斉清掃「キャンパスクリーンデー」が7月18日（水）午後3時30分から、構内全域で行われた。

キャンパスクリーンデーは、7月28日（土）、29日（日）の「オープンキャンパス」に先だって、学内を全学できれいにしようと実施される恒例の行事。教職員や学生計1,036人が参加して、学内各所でゴミや落ち葉を拾い集めたり、汚れた場所の清掃をしたり、放置された自転車を整理したりと、



真夏の“大掃除”に汗だくで奮闘した。

今回のキャンパスクリーンデーで集まったゴミは、可燃ゴミが90ℓ入りゴミ袋131袋、不燃ゴミが同135袋、枯れ草などが120ℓ入りゴミ袋63袋、粗大ゴミがコンテナ（8㎡）1台分。約1時間にわたる清掃活動で、構内はスッキリ。オープンキャンパスの来学者を迎える準備が整えられた。

（施設課副課長 鹿嶋伸彦）

「夢ナビライブ2012」に本学参加(7/19)

高校生を対象にした進学相談会「夢ナビライブ2012」が7月19日（木）、名古屋市港区のポートメッセ名古屋で開かれ、本学も昨年に続いて出展した。

全国100大学が参加し、約8000人の高校生が来場、会場は終始、高校生たちの熱気でいっぱい。会場では、ライブ授業が行われ、本学は田口尚之教授（国語教育）が「山部赤人はなぜ歌聖か」のタイトルで30分の模擬授業。約50人の高校生が、熱心に聞き入った。



大学説明会では、学生担当の都築繁幸理事が、ロンドン五輪に陸上競技で出場する中野弘幸さんのトピックスなども交えて、教員養成課程と現代学芸課程の概要、取得できる資格、学生生活、就職など本学の特徴を説明。「愛知教育大学は、元気はつらつとした学生を求めています。ぜひ愛教大へ」などと呼び掛けた。



個別質問ブースでは、都築理事と入試課職員計4人で高校生や保護者の質問に丁寧に回答。終始途切れることなく相談者が訪れ、盛況だった。

混声合唱団ランチコンサート(7/20)

混声合唱団による演奏会が、7月20日(金)の昼休みに附属図書館内アイ♥スペースで行われた。



混声合唱団には65人が在籍しており、演奏会にはこのうち45人が参加。「日ごろの練習の成果と合唱の楽しさを伝えたい」と、学内での演奏会を実施。「愛知教育大学学生歌」を全員で合唱した後、新入部員を中心に編成し「いっしょに」、本学の橋本剛准教授が作曲した「波へ」など計5曲を披露。集まった50人ほどの観客を前に、フレッシュな澄んだ歌声で歌い上げて、客席から大きな拍手が送られた。

同合唱団は毎年3月に一年の集大成となる定期演奏会を開催、来年3月にも予定している。

JICA 集団研修閉講式(7/21,28)

第14回となるJICA 集団研修「産業技術教育」コースの閉講式が7月20日(金)に行われ、約6週間の予定を無事終了しました。6月12日(火)に始まったこのコースでは、本学教員による「日本の教育制度」や文部科学省の教科書調査官による「我が国の産業技術教育」等の講義、小学校・中学校・工業高校・高専の視察、県内の自動車関連工場、東京



都大田区のものづくり工場の訪問等を行いました。本学では、教員養成の内容と方法について、特にものづくり体験を含めて研修していただきました。

この研修では、広島市の原爆ドームや平和公園を見学したり、伝統技術として奈良市の東大寺、現代技術として東京のスカイツリーの見学も行いました。また、昨年の東日本大震災に関わって、「日本の震災復興への取り組み」も講義の一つとして取り入れています。

最終日の閉講式に続く歓送会では、本学職員有志による郡上踊りなどが紹介され、研修員も加わって楽しいひとときとなりました。本研修で講義を担当された先生、そして研修でお世話になった多くの職員の方々にお礼を申し上げます。

(技術教育講座 宮川秀俊)



愛知県青少年健全育成講演会で本学教員が講演(7/20)

7月20日(金)午後2時半から、名古屋市教育館講堂で、愛知教育大学 地域社会システム講座の水野英雄准教授をお招きし、愛知県主催の講演会「厳しい社会・経済状況のもとで青少年



の非行による被害の状況とその防止のための取組」を開催しました。

この講演会は、7月1日から8月31日までを夏期強調期間として実施する「青少年の非行・被害防止に取り組む県民運動（夏期）」の一環として開催しました。

水野先生からは、①少子高齢化による社会・経済構造の変化②経済状況と犯罪の関係、特に、出会い系サイトや振り込め詐欺等の青少年が被害に遭いやすい犯罪の特徴③こうした背景を踏まえた「ゆとり世代」の青少年の特徴や非行被害防止の方策、をわかりやすくお話して頂きました。

当日は、青少年団体をはじめ行政や警察の関係者約110人が聴講。青少年の健全育成のためには、社会・経済状況を正しく認識することが必要で、青少年行政のあり方について改めて考える機会となりました。

（愛知県県民生活部社会活動推進課長 村瀬誠一）



天文台一般公開(7/21,28)

本学天文台の一般公開が7月21日（土）、28日（土）に行われた。

21日は午後6時から、天文ミニ講座「うるう秒って何？一時刻のひみつ」と題して、澤武文教授（理科教育）が、2012年がうるう年にあたり、さらに7月1日は時刻と地球の自転のずれを調整する「うるう秒」の日であることを解説して、参加者が熱心に耳を傾けていた。7時30分から予定の観望会は、雲の多い天候のため中止となったが、学生が解説する「3D宇宙の旅」上映会、望遠鏡の見学が行われた。あいにくの天気だったが、30人が参加した。



観察。この日は土星の輪がはっきりと見えて、子どもたちから「絵みたい」「シール見たい」と歓声が上がった。また、小型望遠鏡では月の写真撮影や見たい天体を観測するなどして、を楽しんでいた。天候にも恵まれ、この日は74人が参加して盛況だった。

次回は、9月8日（土）午後6時からの予定。

28日は「子どものための講座と観望会」。午後5時と6時の2回、「天文工作教室」が実施され、学生が講師になり参加した50人ほどの子どもたちが星座早見盤を作成。午後7時からのミニ講座では、澤教授が星座早見盤の原理や使い方を説明。参加した親子連れは、早見盤を頭上に掲げて、星の探し方を学んだ。観望会では40cm望遠鏡で月と土星を



トヨタ自動車見学会(7/25)

7月25日（水）午後、学生、教職員合わせて84人が「経済のグローバル化とそれに伴う製造業の動向」をテーマに、トヨタ自動車の元町工場とトヨタ会館を見学しました。



世界を代表する企業、トヨタ自動車は1935年の生産開始から76年11カ月かけて累計で2億台の生産を達成した。円高により海外での生産が増加していますが、年間300万台は国内生産を維持する方針であり、中部地方の経済や雇用に大きな影響を及ぼしていません。

元町工場の組立工場では、「カイゼン」といわれる提案制度によって効率化された設備や工程、環境や働く人への配慮、安全対



策について学習。一つのラインで複数の車種やグレードの車が生産されていることから技術水準の高さを知ることが出来ました。溶接工場では、生き物のように巧みに動く機械に驚きの声を上げていました。

トヨタ会館では様々な展示施設から自動車の仕組みやハイブリッド車等の環境への配慮、安全対策等について学び、また、展示されている車に乗り、その品質を体感しました。ロボットによるトランペット演奏を見ることができ、その技術力の高さを実感しました。



(地域社会システム講座 准教授 水野英雄)

ダンス部全国大会出場作品お披露目会(7/27)

本学ダンス部が初出場する「第 25 回全日本高校・大学ダンスフェスティバル」(8月8日(水)～11日(土) 神戸市で開催)を前に、出場作品のお披露目が7月27日(金)午後5時30分から第二体育館で行われた。



作品は、創作ダンスの2題。最初にコンクール作品「The Static Age—機械的な流れの中で—」を披露。揃いの衣装の10人が、機械のような規則的な動きを連動させて、機械的でありながら何かが生まれる気配を感じさせる踊り。参加発表作品の「Elan Vital」では、跳躍や回転を多数取り入れて、躍動的な動きでまとめられていた。

この日は、学生や教職員など計約40人が見学。同部部長の渡部紗千さんが、「本番まであと2週間、どんどん練習していい舞台にしたいので、応援をお願いします」とあいさつすると、観客を代表して松田正久学長が「初優勝目指して、頑張ってください」とエールを送った。

同部は創部3年目で、初の全国大会出場。顧問の成瀬麻美助教(保健体育)は「今回は初の参加で、チャレンジャー。自分たちらしく、ベストを尽くせるよう、大会までの時間にさらに練習を重ねていきます」と抱負を語った。



ガラス造形展(7/27-30)

学生による「ガラス造形展」が7月27日(金)～30日(月)、附属図書館アイ♥スペースで行われた。

美術教育講座が主催。ガラス工芸を学ぶ4年生と大学院生の計6人が合わせて14作品を展示。いずれも今年4月から手掛けた自由作品で、前期の集大成。毎年、この時期に講評会を実習室などで行っているが、今年は初めて同スペースで、公開形式で実施。

繊細な器から、透明なガラスを水に見立ててポーズをとる人魚の像、ユニークなキャラクターを表現したオブジェなど、自由な発想で作られた個性豊かな作品ぞろい。作品を生かすため、照明や配置の仕方など展示方法にも配慮した。展示前日の26日の講評会では、作品1点ずつ見ながら、感想などを述べ合った。



学生を指導する佐々木雅浩准教授は、「ガラスはまず、技術がないと形にならない。院生はある程度経験をつみ、学部生はまだガラスに振り



回されている感じ。こうして展示することで、彼らのモチベーションになる。今の子たちの感性が表現されていて、挑戦的で面白いですね」。出品した学生たちも「学内にガラス工房があることを知らない人もいたので、同じキャンパスでこういうことを学んでいると知ってもらえたら」と話した。



オープンキャンパス(7/28、29)

高校生を対象にした「オープンキャンパス」が7月28日(土)、29日(日)に開催され、大学の概要、各選修・専攻の説明、模擬授業、施設見学などの大学紹介が行われた。来場者は2日間で4698人と、最多記録を更新した。



両日とも午前9時からの受け付け開始から、続々と高校生や保護者が訪れた。開会を前に講堂で、完成したばかりの大学紹介DVDが映し出され、9時30分から松田正久学長があいさつ。本学の特徴やロンドン五輪に出場する中野弘幸さんの話題などを紹介し、「ぜひ、愛知教育大学で学んでください」をアピール。続いて、クラブ紹介、生協学生委員会による映像による大学紹介が行



われた。第一、第二共通棟などでは各選修・専攻・コースの説明が行われ、教員と学生による説明、施設の見学なども実施された。今年初めて行われた学生による「キャンパスツアー」にも、多くの高校生が参加。時にはユーモアを交えて学生たちが学内施設を紹介し、好評だった。

連日、オープンキャンパス名物のかき氷を販売するテントの前には長い行列ができるほどの猛暑だったが、熱中症の発生もなく無事に終了した。



特別経費プロジェクト中間報告(7/30)

特別経費プロジェクト中間報告会が7月30日(月)午後、大学会館中集会室で開催された。教職員約50人が参加、八つのプロジェクトの進行状況などについての担当教員らの説明に耳を傾けた。報告会は今回が初めて。

プロジェクト(カッコ内は発表者)は「科学・ものづくり教育推進に関する拠点づくりの取り組み」(澤武文教授)「小学校外国語活動を前提とした小・中・高での英語関連科目の連携を進める英語教員養成カリキュラムの開発と授業実践力を高めるための教育改革」(高橋美由紀教授, 小川知恵研究員)「学習指導案データベース化を軸とする教育実習支援システムの構築」



(岩崎公弥理事)「外国人児童生徒を軸とした多文化共生社会をめざす教育支援の構築」(上田崇仁准教授)「教員養成系大学の特徴を活かしたリベラル・アーツ型教育の展開」(大澤秀介教授)「環境研究と環境教育の融合によるエコキャンパスづくり」(三宅明教授)「教員養成キャリアと教員の資質能力との関係に関する調査研究」(岩崎理事, 生寫亜樹子講師, 首藤貴子研究

員)「教員養成機能の充実」(松田正久学長)。本年度が最終年または3年目など継続プロジェクトもあるが、それぞれの担当者が他のプロジェクトの進捗状況を知る貴重な機会になり、発表が終わる度に拍手が送られた。



折出健二理事の司会で開会。松田学長が「プロジェクトは役員が分担して責任を持つ体制をとっている。お互いの取り組み状況を共有してほしい」とあいさつ。澤教授から順次報告。プロジェクトの目的、課題や研究、事業の進行状況などをパワーポイントでわかりやすく説明した。中には多岐にわたる研究の報告もあり、1プロジェクト20分の持ち時間が短く感じさせる発表もあった。最後に松田学長が「プロジェクトの全体像を分かってもらえたと思う。これを機に教職員が一体となって進めてほしい。いい結果、成果を期待している」と総括して、閉会した。

像を分かってもらえたと思う。これを機に教職員が一体となって進めてほしい。いい結果、成果を期待している」と総括して、閉会した。

豊明市との包括協定締結式(7/31)

豊明市との連携協力に関する包括協定締結式が7月31日(火)午前、豊明市役所で行われた。締結式には、本学から松田正久学長、都築繁幸理事(学生・連携担当)、白石薫二理事(財務・施設担当)、一宮登特別学長補佐らが、豊明市は石川英明市長、後藤学教育長、神谷巳代志参事、伏屋一幸行政経営部長、津田潔教育部長らが出席。包括協定の概要が説明され、松田学長、石川市長が協定書に署名した。



本学はこれまで同市で外国人児童の学習支援などの協力の実績があるが、協定締結により、今後は包括的な連携のもとで、教育研究や生涯学習、文化・スポーツ、地域産業などの広い分野での相互協力が図られることになる。同協定は、本学としては5市目、尾張地域では初めて。

石川市長は「豊明市市制40周年の年。協定を足がかりにお互いの発展、情報発信に役だてていきたい」、松田学長は「本学にはいろいろな分野の教員がいますので、いろいろな面でご活用いただき、さまざまな連携ができれば」などとあいさつした。

教員のための金融教育セミナー(7/31)

7月31日(火)に日本教育館(東京都千代田区)において「教員のための金融教育セミナー」が開催されました。同セミナーは、金融広報中央委員会(事務局は日本銀行)の主催で学校の先生や教育関係者等を対象に、学校教育において「生きる力」としての金融や経済の知識を教えるための授業実践に必要な知識や方法を学ぶために行われています。

午前は文部科学省の塩見みづ枝教育課程課長による新学習指導要領に関する来賓講話とそれを踏まえたパネルディスカッション。午後は小学校、中学校、高等学校に分かれて、実践的な授業の方法について考えました。大学分科会は今年から開催され、私が「教員養成における金融教育の展開―体験型授業による実践的教員養成―」をテーマに、体験型学習による実践的な金融教育の取り組みを紹介し、その実践として貿易ゲームを行いました。



貿易ゲームでは、貿易規制や資源による制約等のさまざまな設定をしていますが、特に金融についての理解を深めるために、融資についての設定を行いました。参加者からは楽しく学べて、自分の学校でも実践したいと好評でした。

同セミナーには全国から200人近くの参加者があり、金融教育への関心の高さが伺えました。
(地域社会システム准教授 水野英雄)

お知らせ・報告・投稿

読書カフェ(報告)

7月11日(水)午後1時から、第二人文棟で、第1回「読書カフェ」を開催しました。学生FD組織「あいこね」が主催したこのイベントは、授業外で自分とは違った様々な意見に触れる場を作りたい、という思いからスタートしました。「読書カフェ」という名前の通り、お茶とお菓子を味わいながら、毎回変わるテーマと課題本について自由に話し合います。今回のテーマは「家族って何だろう？—ルームシェアから考える」。課題本は、よしもとばななの『キッチン』と久保田裕之の『他人と暮らす若者たち』の2冊でした。

当日は学生・教員あわせて5人が参加し、和やかな雰囲気の中、意見を交わしました。「『キッチン』に出てくる家族は、形は普通の家族と違うけど家族と言える?」「家族の形は多様になっている」「ルームシェアは、他人と自分の領域の境界線をはっきりさせる経験になる」などと話し、あっという間に2時間が過ぎました。参加者からは、「雰囲気がよかった」「自由な発言ができてよかった」との感想を頂きました。第2回は10月下旬に午後5時から開催予定です。学生・教員・職員問わず、ぜひご参加ください。



(あいこね学生スタッフ 柘植みのり)

第1回新教養科目FD(報告)

来年度からの実施を目指して取り組んでいる教養教育科目に関する第1回FDが7月13日(金)午後4時40分から6時まで第五会議室で開催され、多くの教員・事務職員が参加した。開会に先立ち、大澤秀介大学教育研究センター長があいさつした。

11日開催の教育研究評議会で、「共通科目の改編案」が承認された。その内容は「リテラシーを中核とする教養科目の再編を実施し、共通科目全体として、主体的学びの姿勢を重視し、コミュニケーション能力、数量的分析・処理能力、情報リテラシー、論理的・批判的思考力、問題解決力の修得、向上にシフトする学修領域、授業科目を構想する」ことで、「教養科目はリテラシーをキー概念として、従来の基礎科目と主題科目を全面的に改編し、全体で12単位を配分」し、La(リベラルアーツ)領域の内四つのリテラシー(市民、多文化、科学、ものづくり)より3科目6単位を選択必修することに加え、Lb1(基本概念)領域、Lc1(現代的課題)領域、Ld1(感性創造)領域の3領域の開講科目の中から各1科目2単位計6単位の併せて12単位をとるという改革である。



この日の第1回FDでは、先陣を切って理科教育講座の菅沼教授が「科学リテラシー」、日本語教育講座の川口直巳助教が「多文化リテラシー」で準備中の開講科目について話題提供した。菅沼教授からは、「何を教えるかではなく、何ができるか?」が重要だとの認識の下に、「生物の共生」をテーマに生物が持つ「多様性と共通性」を教えることについて、氏の専門分野の「マメ科植物と根粒菌の共生機構」を踏まえた話があった。また、

川口助教は、「日本社会における外国人労働者とその背景」をテーマに「外国人労働者の実態を知り、彼らの問題を知り、日本企業が外国人労働者に何を求めているかを調査」した結果などを踏まえ、多文化の観点から学生に伝えるべき内容について報告した。参加者からも活発な質問や意見が出された。

お二人の話題を拝聴し、改めて教養教育改革への熱気が伝わってきた90分であった。今後の継続した取り組みと成果に期待したい。

(教育創造開発機構長 松田正久)

催しもの案内

- ◆ ロンドン五輪の中野弘幸さん出場男子 1600mリレー予選をテレビ観戦して応援する会
8月9日(木) 19:00~20:00
本部棟3階 第五会議室
問い合わせ: 秘書広報課 TEL 0566・26・2738
- ◆ 愛知教育大学管弦楽団 第77回定期演奏会
8月11日(土) 17:45開場、18:30開演
愛知県芸術劇場コンサートホール(名古屋市東区)
客員指揮: 米津俊広
曲目: ブラームス 交響曲第2番二長調、ハンガリー舞曲第1.3.5.6.10番
- ◆ 愛知教育大学造形文化コース陶芸専攻 0B 有志による展覧会「C e r a - M i x PartⅢ」
8月19日(日)~25日(土) 10:00~18:00(最終日は17:00まで) 入場無料
八郷・平田邸内「目黒陶芸館 別館」(三重県四日市市千代田町201-2)
問い合わせ: 代表 安藤さん TEL 090・1759・2109
- ◆ JICA青年海外協力隊写真展「みんなでつくろう! 持続可能な世界」
8月21日(火)~10月11日(木) (ただし、附属図書館休刊日を除く)
附属図書館 アイ♥スペース
主催は、愛知教育大学、公益社団法人青年海外協力協会中部支社
国際理解教育やESD(持続可能な開発のための教育)の観点から、JICAの事業や青年海外協力隊のボランティアの現地での活躍などを紹介。本学における国際理解教育やESDの取り組みの紹介も。
問い合わせ: 附属図書館 TEL 0566・26・2681

8月15日付発行号休刊のお知らせ

毎月1日付と15日付で発行している「AUE News」ですが、8月15日は夏季一斉休業中のため、お休みします。次号は9月1日付発行になります。

編集後記



ロンドンオリンピックで世界中が盛り上がっています。現地との時差でテレビで観戦で寝不足の人も多いはずですね。愛教大の中野弘幸さんも、いよいよ8月9日(木)日本時間19時35分(予定)で男子1600mリレーに登場します。刈谷市では市役所に大きな懸垂幕が掲げられたり、ハイウェイオアシスに横断幕が飾られたりと、地元の応援も力が入っています(刈谷市の皆さん、ありがとうございます)。学内のテレビ観戦に向け、同僚が応援用の団扇づくりに奮闘中です。ロンドンからも見えるような(そんなわけありませんが)、パワフルな団扇を手に、その日はテレビにくぎ付けになりそうです。「頑張れ~Nippon! 頑張れ~Nakano!」(K)

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール: kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者: 総務担当理事 折出 健二